

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0572207520
法人名	有限会社 熊谷企画
事業所名	グループホーム あぜみち
所在地	秋田県能代市二ツ井町飛根字羽立95番1号 (電話) 0185-75-2975
評価機関名	財団法人 秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田県秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成20年12月1日

【情報提供票より】 (平成20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年9月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10人
利用定員数計	9人
常勤	5人
非常勤	5人
常勤換算	7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	10,000～12,500円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	67歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山本組合総合病院 ・ 荒谷医院 ・ 鈴木歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改修した2階建ての建物で、家庭的な造りの落ち着いた雰囲気のあるホームである。開設当初からの利用者の認知度が進んできているが、体調の変化への対応も含め、利用者一人ひとりのペースに合わせ、ゆったりと過せるよう支援している。職員も管理者と同じ目線に立ち、介護の意味を理解して、利用者の思いに自然に寄り添った支援となるよう取り組んでいる。また、精神疾患の方が認知症になられた場合の対応等についても検討している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善項目はないが、評価結果を運営者・管理者・職員で話し合い、サービスの質の向上へ向け、取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員は評価について話し合い、認知症の進行と共に、日々その人にあった自尊心を傷つけないコミュニケーションの取り方に配慮し、利用者が安心して生活出来るよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議においてホームについて報告し、多様な立場のメンバーと積極的に意見交換している。また、運営会議で出された意見等についてミーティングを開き、疑問点等を解決しながら、サービスの向上に繋げるよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時に外部の相談窓口等を知らせたり、いつでも気軽に話せるよう声掛けを行っているが、家族からの意見などは余り出されていない。家族の意見等をサービスの向上に反映させる為、入居者の自宅を訪問し、意見を聞く機会を設けるなどの取組を検討中である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日頃から地域の方との付き合いを大切にし、地域の行事等に積極的に参加している。また、市町村や地域消防団との連携も図られており、ホームを理解していただけるよう働きかけ、多様な立場の方の意見等を取り入れながら、利用者のより良い生活へ向け取り組んでいる。

2. 評価報告書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中で自分らしく暮らし続けることを支える為、ホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当時の理念を変化させる等、常に話し合いの場を設け共有しながら、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃より、近所で出合った方には挨拶等の声掛けを行い、孤立しないようできるだけ働きかけている。また、自治会にも参加し、地域との交流も積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、運営者・管理者・職員は評価結果を検討し、常に入居者が安心してより良い生活が出来るよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてホームについて報告し、多様な立場のメンバーと積極的に意見交換し、出された意見をサービスの向上に繋げるよう取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、常に情報交換を行い相談する等して、利用者本位のサービスが提供出来るよう連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の請求時に利用者のホームでの様子を報告している。また、緊急時には電話で連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に外部の相談窓口等を知らせたり、いつでも気軽に話せるよう、声かけをしている。	○	家族からの意見などが出されることが少ない為、入居者の自宅を訪問し、意見を聞く機会を設けるなどの取り組みを検討中である。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の少ない職場環境作りに努め、利用者の状況を把握しながら、職員の異動等によるダメージを抑えるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修の機会を設けると共に、段階に応じた個々の指導にも努め、サービスの質の向上へ向け努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県グループホーム協議会・能代山本グループホーム協会等の勉強会などを通じてネットワークを作り、多様な連携に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	地域の関係者等との連携を図りながら、利用者の立場に立ち、不安等の気持ちをくみとり、本人のペースで居場所が作られていくことが出来るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のさまざまな行動から職員が学んでいる事も多く、お互いが優しい気持ち・ゆったりした関係で、共に支えあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動や行動・表情から求めているものを感じ取り、希望に添えるよう努めている。また希望に添うことが難しい場合でもできるだけ利用者本位となるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の行動・表情を把握し、ケアのあり方について職員間で話し合い、介護計画が作成されているが、話し合いの内容が具体的に反映された介護計画となっていない。	○	職員が、一人ひとりの日々のケアに直接活かせるよう、具体的な内容の介護計画が作成されることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケア会議の中で情報交換が行われており、利用者の状態を把握し、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。	○	本人の状態の変化に伴う介護計画の見直しの内容や結果を書面に残し、評価していくことを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者はもとより家族に対してその時々々の要望に応じられるように、柔軟な支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医と連携が図られており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に協力医療機関の病院と相談し、今後について家族も交えて話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の個人情報の保護については、常に職員に周知徹底していくことに努めている。また、個人の尊重を心がけ、自尊心を傷つけることがないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の認知症の進行に伴い言葉での希望表出が難しくなってきたが、寄り添いながら意向を察知し、入居者の希望に添えるよう、本人のペースにあわせた支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が目に触れる場所に台所があり、食事に関する一連の作業を通じ、食欲をそそり食事が楽しみなものとなるよう、一人ひとりに合わせた支援がされ、後片付け等も行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴日の設定はされているが、利用者の希望やタイミングにより状況に応じた支援がされている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が理解できない部分での積極的な働きかけは行わず、本人のペースにあわせゆったりと生活出来るよう支援している。	○	潜在化している記憶や体の力を最大限活かして、一人ひとりにあった楽しみや役割を作り出すことを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	無理な働きかけは行わず、天気の良い日は日向ぼっこをしたり、近所へ散歩に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	職員はさりげなく見守り、日中は施錠していない。また、ホーム内は見渡せる環境になっており、居室の施錠もしていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から、お互いに協力出来るように地域の付き合いを大事にしている。また、消防団との連携もとれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の残り具合により、一人ひとりの体調や栄養バランスを把握している。また、すきなもの・昔ながらの食べ物を摂取することで、栄養状態が保たれ、おいしく楽しく食べられるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、不快な臭いなどがないように配慮し、職員の動きによる足音や戸の開閉音などにも気配りがなされている。また、生活感を大事にし、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持込は、家族の負担を考慮し無理強いはしていない為、入居してから使いなれていただくことで、居心地よく過ごせる居室となっている。		

※ は、重点項目。